更ニ Feiler 氏ハ本陶材體ヲ色々ノ試藥ニヨリテ 検査ヲ行フテキル、即チ其ノ成績ヲ「シリカートセメント」—惜イカナ其ノ種類ヲ掲ゲテナイガ—ト比較シ、本品ハ硝酸、鹽酸、王水、乳酸、三鹽化醋酸ニ對シ「シリカートセメント」ヨリ抗酸性ヲ多ク具備シテキル、從ツテ實際口腔内ニ於テハ何等酸ニ對スル侵蝕ハ顧慮スル必要ガナイト。

次ニ色素著色度ニ關シ依然口腔内ニ於テ 現レル 程度ノ色素 ニハ 何等著色ノ 恐レナク、更ニ物理的の性状ニ 關シテ 著者ハ他會社製品ト比較シ之ノ Neo-Eldentog ノモノ 最も優秀デ、且ツ前記「シリカートセメント」ニ比シ遙カニ抵抗力大デ咬合壓ニ充分堪ヘルコトガ出來ルト。

カクシテ最後ニ著者ハ本品ニヨル實際應用上ノ意見ヲ述ベテナル、即チ陶材鑄造充填ハ所謂一般鑲嵌體ニヨル充填法ニ屬スルモノデアル、何故ナラバ口腔外デ調製サレ調製サレタ狀態デ嵌入サレルカラデアル、而シテ本法ハ亦同時ニ鑲嵌體ト磷酸「セメント」トヲ使用スルカラ 混合充填ニ入レチバナラヌ、又本品ヲ 旨ク調製シテ嵌入スレバ、其ノ外觀ニ於テ、唾液、口腔内酸ニ對スル優レタル抵抗力ニ於テ、2mm ノ厚サガアレバ咬合壓ニ對スル充分ナル抵抗力ニ於テ、且ツ又緣端硬度ニ於テ、何レモ優秀ナル充填材デアル。又本品ハ鑄造時ノ容積變化甚ダ少ナク、膨脹乃至收縮殆ンドナク、外力ニ對シ變形スルコトナク、磷酸「セメント」トノ接著力ハ充分保證ガ出來ルシ、齒牙硬組織ハ勿論何等有害物ヲ浸出セヌ故軟組織特ニ齒髓ヲ障礙セズ、又齒牙ヲ著色スルコトナク、接著用「セメント」ノ存在デ多少彈性ヲモ示シ、且ツ熱ノ傳導力ナク、一般的ニ何等人體ヲ害スルコトナシ。ト多クノ利點ヲ列舉シテキル。(長尾)

補 綴 科

無齒上顎ニ於ケル Wustrow 及ビ Kantorowicz ノ兩印象法ノ 價值ニ對スル補遺 (Beitrag zur Bewertung der Abdruckmethoden von Wustrow und Kantorowicz im zahnlosen Oberkiefer von W. Eichentopf, Zschr. f. Stom. 1931, H. 2.)

此論文ハ無齒上顎印象法ニ於テ「モデリング」(Kantorowicz) ト石膏 (Wustrow) トノ優劣ヲ論ジタモノデアツテ、義齒床ノ吸著ニ於テハ兩者ニ著明ノ相異ガナイノデ、石膏ノ簡便ナルニ如カズトイフ事ヲ示シテ居ル。

München 大學齒科部ノ Reichenbach, Nüsslein 兩氏ハ嘗テ Kantorowicz, Wustrow 兩教授ノ印象法ノ價值ヲ比較研究シタ。各印象法トシテ次ノ方法ヲ行ツタ。

吸引印象 (Kantorowicz)

運動印象 (Wustrow)

1. 「モデリング」或ハ石膏ノ概略印象

1. 「モデリング」或ハ石膏ノ概略印象

2. 夫ニ依テ蒸和護謨或ハ金屬ニテ印象皿ヲツクル。
3. 「モデリング」印象ヲ採得ス、此時顎運動ヲ行ハセ周縁ヲ形成ス。
4. 印象面ヲ粗糙ニシテ、石膏泥ヲ塗り再度印象ス。

2. 「シェラック」印象皿ヲツクル。

3. 患者ニ顎運動ヲ行ハセテ石膏印象ヲ採得ス。同時ニ周縁形成ヲ行フ。

此各印象法ニ依ル模型ニテ、義齒床ヲ作ツタ。義齒床ニハ荷重ノ爲ニ、兩側小白齒ノ邊ト、兩中切齒ノ間ト3個ノ鈎ガ施サレテ居ル。義齒床ヲ10分間患者ニハメテ置イタ後荷重シタ。1. 荷重方法ハ兩小白齒部ノ鈎ニ垂直ニ荷重スル事、2. 中央ノ鈎ニ水平ニ荷重スル事、3. 中央ノ鈎ヲ斜上方ニ牽引シ前齒デ物ヲ嚙ミ切ル時ニ似タ荷重ヲ與ヘル事ヲ行ツタ。其成績デハ Kantorowicz ノ方が少シク良好デアツタガ、同氏ハ Willemse (1921) ニ從テ、床口蓋縁ヲ延長シテ (Postdam)、軟口蓋粘膜ヲモ壓迫サセテ居ルケレドモ、此方法ハ患者ニハ苦痛デアツテ、吸著ハ非常ニ良クナルケレドモ、堪ヘラレナイモノデアル事ハ、Reichenbach, Nüsslein 兩氏モ認メテ居ル。

Reichenbach, Nüsslein 兩氏ハ義齒床ヲ長時間ハメテ置イタ後ノ成績ヲ比較シテナイノデ、著者ハ10名ノ患者ニ於テ、Kantorowicz, Wustrow ノ各方法ニ依リ床ヲ作り、ハメタ直後ニ於テ荷重シ、床口蓋縁ノ長過ギルノハ取出シテ短クシテ又荷重シタ。更ニ12日間ハメテ置イタ後ニ荷重シテ其ノ成績ヲ比較シタ。

Kantorowicz ノ方法ニ依ルモノハ、口蓋縁ヲ其儘ニシテ置イテ、10分後ニ測ルト概シテ成績が良イケレドモ、口蓋縁ヲ削ツテ修正ヲ施シテ、12日間後ニナルト結果ガ異ツテ來ル。第一ノ垂直ノ荷重ニ於テハ、10例中5例デハ Wustrow ノ方が餘計荷重ニ堪ヘ、3例ハ大差ナク、2例丈ガ Kantorowicz ノ方が大デアツタ。第二ノ水平ノ荷重デハ4例ハ Wustrow ノ方が大デアツテ、3例ハ Kantorowicz ガ大デアル。他ノ3例デハ大差ナイ。第三ノ荷重、乃チ斜上方ニ向フモノデハ、4例ニ於テ Wustrow ノ方が遙カニ成績ガヨク、3例ハ僅カニヨク、残りノ3例丈ガ Kantorowicz ニ於テ成績ガヨカツタ。

總括スルト運動印象 (Bewegungsabdruck) ノ方が吸引印象 (Saugeabdruck) ヨリモ遙カニ成績ガヨロシイ。加フルニ石膏丈ノ方が操作ガ簡便デアル點デ優レテ居ルト、著者ハ獎勵シテ居ル。著者ハ Wustrow ヲ主任教授トスル Würzburg 大學齒科教室ニ屬スル人デハアルガ、嚮ニ Reichenbach, Nüsslein ノ論文ト綜合シテモ、兩者ノ印象法ハ操作ノ相異程、臨牀的價值ニ差ガナイ事が想像サレル。Kantorowicz ノ方

法デハ「モデリング」印象ハ個人的ニ適合ノ良イ印象皿デアルトイフ以外ニ特別ノ意義ノアルモノデハナイト著者ハ述ベテ居ル。(川上)

鐵著部ノ研究 Untersuchung an Lotnähten. Von Heinz Ziehe. D. M. f. Z. 1931. H. 1.

金鐵ヲ選擇スルニアタツテ吾人ハ動モスレバ被鐵著體ヨリ「カラット」ノ低イモノヲ取ルガ、コレハ避ケナケレバナラナイ。鐵著體ト鐵トノ移行部ニ於テ組織ニ不均一ナ部分が出來ルカラデアル。不均一ナ場所ハ腐蝕ニ對シテ弱ク、口腔内ニ於テ變色シ、表面ガ粗糙ニナル。組織ノ均一ニナルタメニハ鐵著體ト鐵トガ同「カラット」ノモノデナケレバナラナイ。同様ノ理由ニ依ツテ 16「カラット」金鐵ノ如キハ如何ナル場合ニモ使用シ得ナイコトニナル。著者ハ 16「カラット」鐵ノ組織寫眞ヲ示シテ、鐵自體ノ組織ガ如何ニ熱處理シテモ甚シイ不均一性ヲ失ハナイコトヲ證明シ、更ニ此鐵ヲ以テ 20「カラット」ノ鑄造體ヲ鐵著シタ場合ニハ鐵著線ニ於テ鐵ト鐵著體トノ間ニ著シイ組織ノ段差ガ出來ルコトヲ示シタ。著者ハ二次、三次ノ鐵著ニ際シテモ「カラット」ノ低イ鐵ヲ用ルノハ不利デアルト主張シテ居ル。

次ニ著者ハ鐵著體ト鐵トノ「カラット」ヲ等シク且ツ 18「カラット」以上ニシテ鐵著部ヲ檢查シタ結果、組織ノ眞ノ均一性ヲ得ルタメニハ單ニ同「カラット」性バカリデナク、熱處理ノ影響ヲモ亦考ヘナケレバナラナイコトヲ實證シタ。即チ鐵著後ナルベク緩徐ニ冷却シナイト、鐵ト鐵著體トノ結晶粒ノ大サガ等シクナラナイ場合が多い。鐵著後ノ緩冷又ハ再加熱トニ二次デノ緩冷ハ此ノ意味ニ於テ極メテ重要ナ操作デアル。

二個ノ性質ノ鐵著體ヲ連續スルトキニ鐵ノ流れ込ミヲ容易ニスルタメニ鐵著體ノ距離ヲ割合ニ大キクシテ多量ノ鐵ヲ盛り込ムコトガアルガ、著者ノ研究ニヨルトスル方法ハ避ケタ方がヨイ。鐵著隙ガ廣イト、鐵著體相互竝ニ鐵ノ擴散ガ手間取ツテ其部ノ組織ノ均一性が得難クナル。故ニ他ノ條件即チ鐵著面ノ清淨、適合等ヲ理想的ニ行ヒ得ルナラバ、鐵著體相互間ノ距離ハ可及的小ナル方がヨイ。

擴散 Diffusion ハ鐵ノ「カラット」ト鐵著後ノ熱處理ト鐵著隙ノ廣狹トニ關係スルモノデアツテ、擴散ノ良否ハ組織檢查ニヨツテ判斷出來ル。熱處理ニ就テ尙注意シナケレバナラナイノハ、過熱ハ屢々鐵ニ氣泡ヲ生ジ易イコトデアル。(巖)

義齒床トシテノ「コントラチード」 Contracid als Prothesenbasis. Von Dr. Lewald.

V. f. Z. 1931, H. 1.

「コントラチード」トイフ合金ハ「ウィブラ」合金ニ似タ耐蝕合金デアル。Wipla-metal (即チ V. 2. A.-Stahl, Krupp) ヲ義齒床トシテ用ルコトニ著想シ成功シタノハ Hauptmeyer 氏ノ功績デアツテ、出來上ツタ Wipla 床ハ大體良好ナ成績ヲ收メ